

湘南新道関連遺跡

だいえばら
(平塚市No.188: 大会原遺跡)

つぼのうち
平塚市No.189: 坪ノ内遺跡

ろくのいき
平塚市No.191: 六ノ域遺跡)

調査期間

20000701～20051228
※断続的に実施

所在地

平塚市真土・四ノ宮地内

時代

縄文
弥生～古墳
奈良・平安
中世・近世



作成日: 20080912

概要

発掘調査は、神奈川県平塚土木事務所が計画・推進中の都市計画道路3・3・6号湘南新道街路整備事業に伴う事前調査として、2000年度から2005年度にかけて実施しました。湘南新道関連遺跡は、大会原遺跡(No.188)・坪ノ内遺跡(No.189)・六ノ域遺跡(No.191)の開発事業地内にかかる遺跡の総称で、相模川下流域右岸の砂州・砂丘上に立地しています。遺跡の周辺一帯は、奈良・平安時代の相模国の行政拠点である国府域の一角と考えられている場所で、調査地点はその北東端に所在します(写真上)。

発掘調査の結果、最も古い時期の遺物は縄文時代中期の土器で、地山の砂層上面から少量出土しています。また、調査区東端では古墳時代初頭の方形周溝墓群が整然と検出され、墓域を形成していたことも判明しました。

奈良・平安時代になると、調査区全域から竪穴住居・掘立柱建物が多数発見されましたが、とりわけ調査区東側で検出された2棟の並列する掘立柱建物は、建物・柱穴の規模が県内で他に例を見ない大型のもの

で、さらに ^{ひさし} 廂 を伴うこと等から国府の中樞建物(国庁脇殿)と想定されます。また、隣接地からは

れんぼうしきかじこうぼう

連房式鍛冶工房も複数棟発見され、古代のある時期に周辺で鍛冶(精錬)作業を行っていたことも判

りました。出土した遺物は、^{はじき すえき} 土師器・須恵器の他に、^{りょくゆう かいゆうとうき} 緑釉・灰釉陶器、初期貿易陶磁器

えっしゅうようけいせいじ ていよう けいようけいはくじ こんどうせいしょうぶつぞう
(越州窯系青磁、定窯・刑窯系白磁)、畿内産土師器、金銅製小仏像(写真)・

おびかなぐ くにのみくり こうちょう ちん ほう
帯金具、「国厨」銘の墨書土器、皇朝十二銭(和同開珎・隆平永寶他)など、古代地方

かんが
官衙特有の遺物が多数見ついています。

中世では調査区東端で70基以上に及ぶ土壇墓群があり、その中には大変珍しいなべかぶ鍋被り葬が1基発

見されています。さらに、調査区の西端は後北条氏家臣で杉浦藤左衛門の屋敷跡と伝承の残る所に
すぎうらとうざえもん
あたりますが、調査では伝承時期よりも遡る14～15世紀代の屋敷をとり囲む溝状遺構が複数見つかりまし
た。